

聖マリア病院を過去に受診された、または現在受診中の皆様へ

聖マリア病院では、皆様の診療情報等を利用し、下記の研究を実施しております。

研究内容につきましては、社会医療法人雪の聖母会、該当委員会にて許可されたものです。本研究の対象者に該当される可能性のある方で、ご自分の診療情報等を研究目的に利用して欲しくない場合、また、研究について詳細にお知りになりたい場合は、下記の問い合わせ先まで、ご連絡をお願いいたします。

| | | | |
|--------------|--|-------------|-------|
| ① 研究課題名 | 急性胆嚢炎に対する早期手術導入前後の術後合併症についての後ろ向き検討 | | |
| ② 実施予定期間 | 研究承認日 ~ 2019年3月31日 | | |
| ③ 対象患者 | 急性胆嚢炎に対し手術を行った患者さん | | |
| ④ 対象期間 | 2013年1月から2017年12月 | | |
| ⑤ 研究機関の名称 | 社会医療法人雪の聖母会聖マリア病院 | | |
| ⑥ 対象診療科 | 外科 | | |
| ⑦ 研究責任者 | 氏名 | 北里 雄平 | 所属 外科 |
| ⑧ 使用する資料等 | 年齢、性別、BMI、発症から手術までの時間(hr)、術前併存疾患(高血圧症、糖尿病、慢性閉塞性肺疾患、ステロイド使用、慢性腎障害、消化性潰瘍、心血管疾患、肝疾患、悪性疾患)の有無、腹部手術歴、Charlson comorbidity index、体温、ASA-PS、血液生化学検査所見(白血球数、血小板数、PT-INR、CRP、総ビリルビン値)、CT画像での胆嚢周囲の特徴的炎症所見、Tokyo Guideline 2013重症度分類、手術時間、出血量、術者経験年齢、術前胆嚢ドレナージの有無、胆嚢管処理の有無、ドレーン留置の有無、術後合併症の有無、術後合併症の詳細、Clavien-Dindo分類、開腹移行率 | | |
| ⑨ 研究の概要 | <p>急性胆嚢炎の患者さんに対する治療は、Tokyo Guideline2013によって示されている様に高度の内視鏡外科技術を有する場合は、早期もしくは緊急に腹腔鏡下胆嚢摘出術を行うことが望ましい、とされています。以前、当院では急性胆嚢炎の患者さんに対して、経皮経肝胆嚢ドレナージや抗菌薬による保存的治療を行った後に、待機的に手術を行う方針としていました。2015年からは急性胆嚢炎に対し早期および緊急に腹腔鏡下胆嚢摘出術を行う方針へと徐々に変更した経緯があります。</p> <p>今回、急性胆嚢炎に対する治療方針の変更(Tokyo Guideline2013に準ずる)が術後短期成績にどのような影響を及ぼしたのか、後方視的に検討することで術後合併症に関連する術前、術中および術後因子が分かり、今後の急性胆嚢炎の患者さんに対する術後合併症の低減に寄与するのではないかと考え今回の研究を行うこととしました。</p> | | |
| ⑩ 倫理審査 | 研究倫理審査委員会承認日 | 2018年 7月 9日 | |
| ⑪ 研究計画書等の閲覧等 | 研究計画書及び研究の方法に関する資料を他の研究対象者等の個人情報及び知的財産の保護等に支障がない範囲内で入手又は閲覧できます。詳しいことにつきましては、下記の問い合わせ先にご連絡ください。 | | |
| ⑫ 結果の公表 | 本研究の結果は、学会や専門誌で発表いたします。 | | |

| | | |
|-------------------|---|------------------|
| ⑬ 個人情報の保護 | 個人を特定できる情報は一切公表されることはありません。個人を識別できる情報は聖マリア病院で特有の番号に置き換え（匿名化）て、管理保管します。研究データや研究に関わる資料は、研究終了後から 5 年間厳重に保管し、その後適切に破棄します。 | |
| ⑭ 知的財産権 | 聖マリア病院に属します。 | |
| ⑮ 研究の資金源 | 特にありません。 | |
| ⑯ 利益相反 | 研究結果に影響を与えるような利害関係はありません。 | |
| ⑰ 問い合わせ先・ 相談窓口 | 外科 北里雄平 | |
| | 電 話 | 0942-35-3322（代表） |